

01 東京大学政策ビジョン研究センター (Todai Policy Alternative Research Institute)、 設置される

現代では、社会で発生する諸問題を解決するために、最先端の研究成果を活用した政策の形成が求められています。東京大学では、これまで教員が個人として審議会等で政策立案に参加し、政策形成に貢献してきました。しかし、大学の社会貢献が求められる今、東京大学が政策形成の知的リソースを提供し、政策の選択肢を提示することは、国立大学法人としての本学の役割の一つであると考えられます。そこで2008年7月8日、総長室総括委員会のもとに「政策ビジョン研究センター」が設置されました。

当センターは、本学から政策に関する提言を自ら発信する機関としてのみならず、学内のさまざまな部局等による研究成果からアイデアを汲み上げ、政策の選択肢として社会に発信する機関として活動していきます。また、学外の官庁、企業、マスメディア、その他の組織ともネットワークを形成し、相互の

交流と政策研究の活性化を図っていく予定です。構成メンバーはセンター長に森田朗教授(大学院公共政策学連携研究部)、専任教員に坂田一郎教授、中島勸准教授、特任専門職員2名、事務職員2名を含む合計7名のスタッフのほか、運営委員として松本洋一郎教授(大学院工学系研究科)、大江和彦教授(大学院医学系研究科)、五神真教授(大学院工学系研究科)、藤原帰一教授(大学院法学政治学研究科)、福田慎一教授(大学院経済学研究科)の5名の教員が参加しています。今年度は、北東アジアの安全保障、知的財産とイノベーション、

医療システム等、我が国が直面する政策課題に関する研究ユニット(政策に関する研究を行う単位)の立ち上げを目指すとともに、出版物やウェブサイト、公開シンポジウム等を通じてそれらの研究成果を社会に向けて多角的に発信していきたいと考えています。



第一回運営委員会時の集合写真

02 「人間の安全保障」でゼーリック世界銀行総裁と政策対話

□ バート・ゼーリックという名前は、日米通商交渉のタフ・ネゴシエーターとして記憶している方も多いことでしょう。そのゼーリック氏が2007年7月に世界銀行グループ総裁に就任し、世銀の取り組むべき重点課題として貧困削減、平和構築、知識戦略な

ど6つの政策課題を掲げました。新総裁の下、世銀は広い視点に立った活動を積極化させています。

東大では、2004年に「人間の安全保障」プログラムを設置して、国際貢献を目指す大学院教育を推進しており、2006年からは学部1、2年生向けに「平和構築論」を開講しています。そこで、東大と世銀との共通の問題関心である貧困削減や平和構築などについて話し合う機会を実現させるべく、かねてより小宮山宏総長がゼーリック総裁を招待していました。

今年5月下旬に横浜で開かれたアフリカ開発会議(TICAD)に出席するために訪日したゼーリック総裁は、30日に来学し、「世界銀行の使命と人間の安全保障」とい

うテーマで政策対話を行いました。小宮山総長の冒頭挨拶で政策対話が始まりました。モデレータは、ゼーリック総裁と個人的にも親しい船橋洋一朝日新聞主筆にお願いしました。

ゼーリック総裁は特に若い世代との率直な政策対話を望んでいたため、原則として参加者は東大関係者に限定しましたが、教職員や学生を中心に約250人が来場して、盛会となりました。第1部の教員2名が参加したパネル討論と、第2部の博士課程の学生3人との質疑では、21世紀国際社会における人間の安全保障を脅かしている様々な課題をめぐって政策対話が展開しました。

政策対話直前の小宮山総長とゼーリック総裁との会談では、世銀の知識戦略をめぐって、小宮山総長が東大の取り組み(知の構造化)を紹介するなどして、実質的な協議が行われ、今後東大と世銀との協力・連携の可能性を探ることに合意しました。

写真提供：世界銀行



握手をするゼーリック世銀総裁と小宮山総長